

## 特集にあたって

---

第50回日本小児放射線学会学術集会が、窪田昭男会長のもと2014年6月に、神戸国際会議場で開催されました。この学術集会で行われたシンポジウムの中から5つの分野を選び、当日の講演内容を踏まえたご寄稿を演者の先生方をお願いし、本号(第31巻1号)と次号(第31巻2号)に掲載いたします。

本号では、まず窪田昭男先生に第50回大会の総括を行っていただき、シンポジウム以外の学術大会の多彩な側面についてもご報告をいただいております。本号で取り上げるシンポジウムは「先天性疾患の胎児診断—今とこれから」、 「血管腫・血管奇形に対するIVR最先端」、 「急性腹症の超音波診断—超音波はCTを超えられるか?」の三つで、計11人の先生方にご寄稿をいただきました。

次号では、「小児核医学検査—こんな時にこんな検査を」、 「先天性嚢胞性肺疾患の新しい概念と画像診断」の二つを掲載していきます。

大変な激務の中、貴重な時間を費やして論説を寄せてくださった先生方に、こころから感謝申し上げます。ありがとうございました。

日本小児放射線学会雑誌  
編集委員会